

平成15年度第2回大台ヶ原自然再生検討会

◆日 時 平成16年1月16日（金）14：00～16：30

◆場 所 春日野荘 故傍の間

◆出席者 検討委員／9名中7名出席

関係機関／近畿中国森林管理局、奈良県、三重県

環境省／近畿地区自然保護事務所長、自然環境計画課補佐 他

◆議 事

(1) 平成15年度調査結果の概要について

(2) 今後の進め方について

1) 森林生態系の保全再生手法について

2) 新しい利用のあり方について

◆議事概要 (会議は公開で行われた)

○資料に基づき、第一回検討会指摘事項への対応について事務局より説明。

議事(1)

○平成15年度調査結果の概要について事務局より説明。

○委員からの主な指摘

・利用による鳥類への影響調査については、繁殖期のデータも把握しておくべき
(特にドライブルウェイ沿い)。

・森林更新のどの過程が阻害されているのかを明らかにするためには、実生の数
だけでなく、実生の年齢も調査、分析すべき。

議事(2)

○資料に基づき、森林生態系の保全再生手法及び新しい利用のあり方について事務
局より説明した後、各部会長から補足。

○委員からの主な指摘

・保全再生手法の計画をたてる際には、単なる繰り返しにならないよう、過去に
行ってきた播種等の成果の中で使えるものは活用すべき。

・森林生態系の保全再生を具体的に進めていくためには、調査方法を詳細に示す
とともに、調査結果の解析を踏まえた仮説をたて、目標に向けた道筋を明らか
にすることが必要。

→指摘を踏まえて「自然再生推進計画」のとりまとめを行う。

・パークアンドライド駐車場の候補地の検討にあたっては、環境への影響につい
てアセスメントが必要なことをはっきりさせておくべき。

・マイカー規制やより良好な森林地域の保全の強化に向けては、利用対策部会と
森林生態系部会の連携が重要。

・大台ヶ原の自然環境や利用のあり方を継続的に調査研究する場としてのセンター
機能など将来的な体制づくりについても、文部科学省等の協力も得て考えること
が必要。

その他

- ・ニホンジカ保護管理検討会については、来年度から森林生態系部会に組み込むなど整理することが必要。

→両者の密接な関係を踏まえ、「自然再生推進計画」のとりまとめの際には、ニホンジカ保護管理計画の内容を取り込んだ内容とともに、今後の体制についても検討する。

[文責 近畿地区自然保護事務所]